花園大学　ビジョン2021自己点検・評価（中間評価） 概要版　2020年3月31日

「教育力」の強化
　学生一人ひとりを大切にした丁寧な教育と、その成果に対する「教育の質的保証」を徹底し、社会に貢献する人間を育成する。

Ⅰ．教育の質的保証の徹底	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　「教育の質転換」に対応した学士課程教育を実施するために、教学マネジメント体制および教学IR体制を確立する。	A	教学マネジメントセンターを設置し、教学マネジメント体制の構築と教学推進、学習支援等の企画と推進を行った。教学IR体制については、自己点検評価部会がIR活動を行う部会とし、その体制を確立した。	教学マネジメント体制及び教学IR体制を確立した。	今後はIR活動を推進し、３ポリシーを踏まえた教育課程の見直しが必要である。
②　学生の学習成果を測定し、教育課程を改善するためのPDCAサイクルを確立するために、全学的・統一的なアセスメントを実施する。	A	学生の学習成果を測定するために、全学生を対象として、1回生（入学時）と3回生時に社会人基礎力テスト（PROGテスト）を実施している。さらに、令和元（2019）年度にはコンピテンシー成長要因インタビュー調査を実施し、学生がどのような過程を経てコンピテンシーが成長したかを調査し、報告書を作成した。	本学では、全学的・統一的なアセスメントとして、学生の学習成果を測定するために、全学生を対象として、1回生（入学時）と3回生時に社会人基礎力テスト（PROGテスト）を実施している。	結果分析と活用など、PDCAサイクルを確立していくことが必要である。

Ⅱ．教育力の強化	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　初年次教育・キャリア教育に力を入れ、学生の基礎学力、コミュニケーション能力、社会人基礎力等の向上を目指す。	B	基礎学力、コミュニケーション能力、社会人基礎力の向上を目指し、初年次教育として「アカデミック・スキル」「コミュニケーション・スキル」を、キャリア教育として「キャリアデザインⅢ」「キャリアデザインⅣ」を必修科目としている。	PROGテストの成長要因インタビュー調査の結果から、「キャリアデザイン」におけるグループワークやPBL型の授業によって一定の成果を上げていることが確認できる。	DPとのつながりを踏まえ、教育内容の見直しや改善が必要である。
②　専門教育に力を入れ、学生の学力の向上、各分野の専門職の養成、資格取得率・国家試験合格率の上昇などを目指す。	B	(1)文学部の取り組み 各学科における専門的知識・技術を学生に習得させるための卒業論文指導を中心とした教育的指導を行った。 (2)社会福祉学部の取り組み 各学科に必要な知識・技術・能力を修得し、実践が可能な人材を養成するための教育的指導を行った。	(1)文学部 各学科における専門的知識・技術を修得した人材を輩出することができた。 (2)社会福祉学部 各学科に必要な知識・技術・能力を修得し、各々の分野で実践が可能な人材を輩出することができた。	(１)文学部 ①各学科の教育力を引き続き高めるとともに、卒業後に、宗門の後継者や専門職として活躍できる人材を少しでも多く輩出することが課題である。 (２)社会福祉学部 ①社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験合格率について、引き続き全国平均を上回る高い合格率を達成し続けることが課題である。 ②スクールソーシャルワーカー養成課程および公認心理師養成課程を定着させることが課題である。 ③児童福祉学科の教育課程および指導体制の問題点について、課題を解明して解決することが必要である。

③　地域社会と連携し、地域における諸課題に取り組む教育・研究を推進し、社会に貢献できる人材を育成する。	A	1.　子ども向け地域防災イベント「イザ！カエルキャラバン！」 2.葛川児童クラブ活動 3.京都市右京区地域連携事業「山国隊プロジェクト」	1.キャリア科目「課題解決プログラム」（師茂樹教授担当）の地域課題として、花園大学オリジナルプログラムを発案し、当日実施している。 2.キャリア科目「学生デベロップメントゼミ」（中善則教授担当：教職志望ゼミ）の地域課題として、学生による地域課題解決や葛川地域の活性化の協働プロジェクトを展開している。 3.各事業に学生がスタッフとして参加し、地域に出て課題を自ら解決する活動を通して、社会に貢献する人材育成をしている。	1.地域防災イベントとして、花園大学が主催する「イザ！カエルキャラバン！」は、定着しつつあるが、参加学生の確保が課題である。 2.「学生デベロップメントゼミ」教職志望学生の体験として、この葛川児童クラブ夏季活動は、定着してきているが、葛川村づくり協議会と活動内容についての検証や課題について話し合う必要がある。 3.プロジェクトとしては終了したが、「山国隊研究」として山国地域との連携を継続中である。
④　学生の主体性、批判的思考力、問題解決能力などを養成するためにアクティブ・ラーニングを推進する。	B	アクティブ・ラーニングを中心にキャリア教育や問題解決力などの養成を推進した。またアクティブ・ラーニング推進のため、FD研修を開催した。	学生の主体性、批判的思考力、問題解決能力などを養成するためにアクティブ・ラーニングを推進している。	学生の主体性、批判的思考力、問題解決能力などを養成するために、さらに多くの科目で様々なアクティブ・ラーニングを実践していくことが必要である。
⑤　本学が培ってきた教育・研究の成果を基盤として生かし、学部、学科の再編・刷新を行う。	C	2017年10月発達教育学部届け出設置について文部科学省に事前相談を行った。同年12月届け出不可の判定を受けた。2018年3月設置認可申請、同年5月及び8月の審査意見を受け補正対応を行ったが、10月下旬に申請を取り下げた。	2019年4月発達教育学部は設置できなかった。2019年4月から届出により、仏教学科35、日本史学科65、日本文学科60、臨床心理学科85に定員を振り替えた。	2019年5月、学長が将来構想委員会を設置した。教育組織見直しを視野に将来構想検討を諮問した。2020年3月に答申予定である。学部の設置には5年先までの緻密な設置計画作成には教職協働とともに学内が一致団結して準備を行う組織体制が必要である。
⑥　留学生が日本語力を向上させるための教育課程を設け、留学生の受け入れを推進する。	B	留学生必修科目として「日本語」4科目8単位がある。留学生が日本語での授業を受けるにあたって十分なレベルまで日本語能力を向上することを目指している。また、「日本語」とは別に、基礎教育科目選択区分に留学生必修科目として、日本社会や日本文化に対する理解を深める「日本事情」という科目を設置している。	長年にわたり左記の科目で留学生の日本語能力を向上することを狙い開設している。留学生には大学で学ぶための基本的な授業であり、各々が学習してきた日本語学習を、この授業により補完できる内容となっているため充実した科目配置であるといえる。	大学での教育に対応できる日本語能力がある学生の受け入れをしているところでもあるので、これ以上の別教育課程を設定することは難しい。教育課程とは別に留学生と日本人学生の交流を促進し、日本語を覚える機会を模索していくことも必要である。

花園大学　ビジョン2021自己点検・評価（中間評価） 概要版　2020年3月31日

「研究力」の強化
　禅・仏教、歴史、文学、社会福祉といった諸分野の研究を行い、その成果を国内外に公表し、社会に貢献する研究体制を構築する。

Ⅰ．研究成果の「創出」と「発信」	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　各分野の学界をリードする研究成果を創出することを目指す。	C	一定の研究費配分のほか、科研費不採択者のフォローアップなどの支援策により研究を奨励している。	外部資金による学術研究の件数は一定値を保っているが、分野の特性として成果を多方面から大きく取り上げられることは少ない。	研究成果の報告等により、研究活動を活性化していくことが必要である。
②　「地域連携」の一環として、地域社会における諸課題を解決できる研究成果の創出を目指す。	B	1.京都産学公連携機構文理融合・文系産学連携促進事業「発達障害学生キャリア支援隊プロジェクト」 2.京都市右京区地域連携事業「山国隊プロジェクト」	1.『大学主導型支援付きインターンシップ』のモデル事業を考案した。パンフレットの制作配布、発達障害学会での学会発表、花園大学公開シンポジウムを開催した。 2.全体をプロデュースした。地域交流事業、山国の郷歴史探求事業、山国隊及び京北PR事業、山国隊紹介冊子作成を行った。	1.プロジェクトとしては終了しているが、京都府総合就業支援室にて「寄り添い支援型インターンシップ事業」として継続している。 2.プロジェクトとしては終了しているが、「山国隊研究」として山国地域との連携継続中である。地域社会の課題に取り組む研究には事業費が必要である。
③　研究成果を「社会貢献」として国内外に発信し、花園大学のステイタスアップを図る。	C	研究成果は教員業績としてホームページの教員一覧で紹介している。	国内外に発信できていない。	研究課題を広く発信し、社会のニーズにこたえる。ホームページ等による情報発信が必要である。

Ⅱ．研究の「資金力」の強化、連携研究の推進	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　科学研究費の申請を奨励し、その獲得を目指すとともに、その他の外部資金の獲得をも目指す。	C	科研費公募など情報収集とともに、教員への周知を行っている。	2017年度6件、2018年度9件、2019年度13件、申請件数が増加している。次年度申請につなげるため、不採択課題への研究費助成を行っている。	外部資金公募情報の積極的な周知や教員の研究成果について、情報発信が必要である。
②　地域社会における諸課題に取り組む研究については、企業や地方自治体などと協定を結んで連携して行う研究を実施し、「地域連携」の推進を図る。	A	1.京都産学公連携機構文理融合・文系産学連携促進事業「発達障害学生キャリア支援隊プロジェクト」 2.京都市右京区地域連携事業「山国隊プロジェクト」	1.『大学主導型支援付きインターンシップ』のモデル事業を考案した。パンフレットの制作配布、発達障害学会での学会発表、花園大学公開シンポジウムを開催した。 2.全体をプロデュースした。地域交流事業、山国の郷歴史探求事業、山国隊及び京北PR事業、山国隊紹介冊子作成を行った。	1.プロジェクトとしては終了しているが、京都府総合就業支援室にて「寄り添い支援型インターンシップ事業」として継続している。 2.プロジェクトとしては終了しているが、「山国隊研究」として山国地域との連携継続中である。地域社会の課題に取り組む研究には事業費が必要である。

花園大学　ビジョン2021自己点検・評価（中間評価） 概要版　2020年3月31日

「学生支援力」の強化
　学生一人ひとりが安心して学業に専念し、充実した学生生活を送り、社会に貢献できる力を身につけることができる体制を構築する。

Ⅰ．修学支援の充実	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　奨学金制度・授業料減免制度を整備・充実し、学生への周知徹底を図り、その有効な運用を実現するとともに、アルバイトの紹介など経済的支援を実施する。	B	優秀な成績だが経済的理由のため修学困難な在学生（外国人留学生を除く）への授業料の一部減免や奨学金、スポーツ奨学金など、様々な経済的支援を行っている。 アルバイトについては、京滋地区学生アルバイト・下宿対策協議会において最低賃金や制限職種基準を設けており、それに従って紹介している。	多くの学生が本学独自の授業料減免制度等を利用しており、経済的に困窮している学生に対しては十分な取り組みを実施している。 入学式終了後からのオリエンテーションや、保護者を対象としたガイダンス、掲示やポータルでの告知をしている。 アルバイトもブラックバイトに注意しながら、企業からの申し込み時にチェックを掛け、また、近年はアルバイト紹介の優良企業とタイアップし、学内HPから紹介できるようにしている。	高等教育の修学支援新制度を踏まえ、その他の奨学金について検証や見直しが必要である。 その他の奨学金についても、現状の制度の見直し時期にきており、検証を進めることが喫緊の課題である。
②　配慮を必要とする学生の学修支援は、各教員と学務部等を中心とする職員が連携し、補習教育など個別の学修指導体制を構築する。	A	入学前に配慮懇談会を実施し、入学後の学習支援（授業や定期テスト、レポート等）や大学生活での配慮支援について確認している。また、入学後学校生活が進む中で、困り感を感じた学生に対する相談支援も実施している。「教職員のための障害学生支援ハンドブック」を作成し、教職員が活用できるよう情報をまとめている。	入学前の配慮懇談申請に応じて、配慮懇談会を実施し、4月は概ねスムーズにスタートした。 入学後大学生活が進む中で、病気等により授業や学習に支障をきたした学生に対して学務課や担当教員と連携し、課題解決につながったケースがあった。 学生の来室者数は4月から11月までで2018年度1,891名（2017年度1,676名）であった。特に1回生の来室が多い傾向が見られた。	大学卒業後の学生の自立に向けて、個々の学生に対する支援の内容を状況に応じて変えていく必要がある。 指導教員等との連携の充実や学務課、就職課との連携の充実などを改善していく必要がある。

Ⅱ．生活支援の充実	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　クラブ活動、学園祭、ボランティア活動、地域貢献活動を、大学として積極的に支援し、学生の自立と社会への貢献を促す。	B	課外活動の重要性に鑑み、課外活動に対する援助金を支給している。それ以外にも適当と認められるプロジェクトなどに学生活動支援援助金を設けている。また、学園祭については、学園祭実行委員会を後方からサポートするために、学生主体で運営しているが、学務課学生生活担当の職員が積極的に関わり支援している。	従来より、左記のサポートを実施している。課外活動やボランティアなど学生が行う正課以外の活動をすることにより、様々な経験を自分の力にし、社会で必要とされる人材の育成を目的とし、多くの学生が参加できるように環境を整えている。	近年は、課外活動に取り組む学生が減ってきており、部員数が数名の団体も存在している。大学として、公認団体の在り方も含め、学生の課外活動等の活性化に向け強力にサポートしていくことが必要である。

②　学生の多様な相談・問い合わせに迅速かつ丁寧に対応するために、各部署間の連携強化を図るとともに、事務窓口の一元化体制を整備する。	C	事務窓口の一元化体制として教務課、学生課をひとつの課とし、学生のワンストップ化を図った。	教務関係、資格関係、学生生活関係、国際関係、保健室等が一元化され学生の利便性が向上した。	事務の機能別集約や、学生のワンストップ化対応を検討することが必要である。
Ⅲ．退学者・休学者の防止・減少対策の徹底化	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　入学前教育、新入生オリエンテーション、初年次教育等を充実させ、早期に高校生から大学生への移行と人間関係の構築を図る。	C	AO入試合格者への課題義務付け ・2018.3.29ぷれはな ・2019.3.28ぷれはな グループワークを体験することで人間関係構築を図っている。 「アカデミック・スキル」のクラス編成と共通でグループ編成している。	・AO入試合格者課題提出率100％ ・407名中219名参加 　満足率　96％ ・492名中239名参加 　満足率　98％	課題は以下のとおりである。 ・初年次教育との連携 ・クラス担任との連携 ・推薦入試合格者全員への課題設定 ・参加率の向上
②　クラスアドバイザー制度を発展させ、学生一人ひとりに迅速かつ丁寧に対応できる体制を構築する。	C	従前からクラスアドバイザー制度を設け、学生への個別支援をするようにしてきたが、職務範囲が不明確で形骸化しており、本来の学生支援にどこまで効果を上げているのか疑問が生じていた。学長は「面倒見のよい大学」をキャッチフレーズに学生が抱えている課題や方向性を理解した上で適切な支援を徹底的にしていくことにした。	2018年度から担任制度を実施運営し、入学年度の複数回の個別面談、学生カルテ、成績不振者に対しての面談などによって学生支援を充実させた。専門担任も、３・４回生ゼミの担当者が、従前どおり指導・助言を行った。	2018年度から担任制度を実施してきた。アカデミック・スキル担当教員がクラス担任となり、信頼関係の構築を目指したが、アカデミック・スキル担当教員とクラス担任にズレが生じており初年次教育の担当者の編成も含めて検討する必要がある。 また、学生カルテについては、面接記録を登録していない教員が全体で１/３程度いるため、必ず登録することを徹底し、全体で共有できるようにすることが必要である。

花園大学　ビジョン2021自己点検・評価（中間評価） 概要版　2020年3月31日

「就職支援力」の強化
　キャリア教育を充実させ、個々の学生の希望・能力・個性にマッチングした就職支援を実施して、高い就職率が実現できる就職支援体制を構築する。

Ⅰ．キャリア教育の充実	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　「キャリア・デザイン」を始めとする諸科目からなるキャリア教育を実施して、社会人基礎力・ジェネリックスキル等の養成を図る。	B	基礎教育科目にキャリア科目群を配置している。 【必修区分】 「キャリア・デザインⅢ・Ⅳ」 【選択区分】 「課題解決プログラムⅠ・Ⅱ」 「学生デベロップメントゼミⅠ・Ⅱ」「社会に出るためにⅠ・Ⅱ」 「キャリアとコミュニケーションⅠ・Ⅱ」 「インターンシップ」 授業はグループワークやPBL型の授業を導入している。	社会人基礎力・ジェネリックスキル等の養成を図るため、キャリア科目群を配置している。 グループワーク、PBL型など実践型授業により、社会人基礎力・ジェネリックスキルの養成に資する内容を実現している。	学修成果を検証することが必要である。
②　キャリア教育については、キャリア教育科目、就職試験対策科目、免許・資格等の対策科目を組織化・体系化した「キャリア教育課程」に再編し、その整備・充実を図る。	C	キャリア教育としての科目を配置している。	体系化した教育課程として再編できていない。	DPとのつながりを踏まえてキャリア科目の編成を体系化するためには、キャリア科目を担当し、コーディネートする教員が必要である。
Ⅱ．就職支援の充実	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　個々の学生の希望・能力・個性にマッチングした就職支援を行うために、個別就職相談、企業・諸団体と連携した説明会などを実施し、その充実を図る。	A	3年次生　就職ガイダンス（年4回）、2月の就職活動支援プログラム・学内合同就職説明会を開催した。京都府・滋賀県と就職協定を締結しており、就職支援プログラムにおいて、京都府・滋賀県の就業支援組織と連携した支援プログラムを実施した。学生支援については個別面談を中心に実施し、週2回カウンセラーによる個別面談・面接対策などひとりひとりの進路に合わせた個別支援を実施した。	4年連続で就職率も向上しており取組の成果と考える。	進路指導・就職指導を個別面談でひとりひとりに届けることができるのが本学の強みであり、ひとりでも多くの学生に支援が届くようにこの取り組みを強化する。
②　周辺地域の企業・諸団体への訪問を実施して大学との関係を構築するとともに、新規および継続的な求人を獲得する。	A	京都市・京都府・滋賀県の就職支援団体と連携して地元企業との関係づくりを行い求人につなげている。 社会福祉や保育現場の実務者をキャリア科目のゲスト講師とするなどの取組を通じて学生のキャリア観の醸成につなげている。	様々な団体との連携や交流会への参加などにより幅広い業界・様々な地域の企業や福祉事業所と接点を持つことができており、関係構築と求人獲得につなげることができている。就職率も向上しており取組の効果と考える。	様々な業界・地域の新規求人獲得や、関係構築のために訪問の頻度を増やしていくことが必要である。
③　長期・短期のインターンシップへの参加拡大を図るために、学内制度の整備を行う。	C	低回生から必修科目でインターンシッププログラムの案内を行い、インターンシップの参加促進を行った。また、キャリア科目で、体験談を伝えたり、外部団体の情報提供をするなど、インターンシップ参加促進に取り組んだ。	学内の制度整備には至っていない。	1Dayのプログラムが増える傾向にあるが、教育効果のある就業体験の伴うインターンシップや低年次生が参加しやすいプログラムにするなど工夫をして参加学生の増加を図る。

花園大学　ビジョン2021自己点検・評価（中間評価） 概要版　2020年3月31日

「経営力」の強化
　財政基盤の安定化と組織の活性化を図り、改革の計画実現を目指す。

Ⅰ．財政力の強化	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　大学を維持・発展させ、教育研究の充実を図るために、財務計画の目標値を設定し、厳格な予算管理のもとに財政基盤の安定化と健全な財政運用を図る。	B	中期ビジョンに基づき事業計画・予算を策定し、厳格な予算管理を実施している。 新学部設置申請等に際し中期的財務計画を作成し、財務の健全性を検証している。	学生数の減少等に伴い事業活動収支がマイナスとなっているが、貸借対照表財務比率は良好で、健全な財務状況を維持している。	中長期事業計画に基づき、中長期的に収支バランス・財務の健全性を確保する財務計画を策定することが必要である。
Ⅱ．広報力の強化	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　ＨＰ等、広報媒体の拡充、強化を図り、あらゆる機会を利用して広報活動を展開する。	A	2017.11にHPをリニューアルし、完全にスマホ対応とした。 ツイッター、facebook、インスタグラムなどSNS発信を強化した。	2018年度入試　志願者929人　入学者412人 2019年度入試　志願者1455人 入学者503人	安定的な定員充足のための広報戦略の立案と、大学広報と入試広報の位置づけの再確認が必要である。
Ⅲ．　組織力の強化	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　ガバナンスを強化するために、意思決定体制、執行体制の整備・強化を図る。	B	学校教育法の改正を受けて、学則等の規程改正により、学長が意思決定できる体制・執行体制として強化を図った。	学長による、大学の意思決定体制・執行体制を整えた。	学長の役割を踏まえ、役割分担の下に補佐体制のあり方を検討することが必要である。
②　学生サービスの向上を目指して、事務組織の強化を図る。	B	学生の窓口一元化、学生相談支援室などの設置をした。	学務課ワンフロアで機能している。	事務の機能別に集約や、学生のワンストップ対応を検討することが必要である。
③　事務の質向上と効率化を図るために、ＳＤを推進する。	A	学内でSD研修を開催した。 2017.5回 2018.3回 2019.(~9)1回 また、学外SD研修に参加し、事務の質向上と効率化を図っている。	連合教授会開催後にSD研修を開催し、参加率も上がってきている。また、研修時の動画を配信し、欠席者のフォローアップと共に、教職員が再視聴できるようにしている。	事務の質向上と効率化を図ることが必要である。

④　教職員の採用・昇任の方法・基準を検証するとともに、新たな業績評価制度を構築する。	C	教員の採用方法・基準について、新たに検証し、規程化する準備をしているところである。 教員の昇任基準の検証もできており、規程改正について準備しているところである。 職員の採用・昇任の方法・基準は検証できていない。 教職員の評価制度については検討しているものの、構築まではできていない。	教職員の評価制度については構築できていない。	採用・昇任の方法・基準を検証するとともに、新たな業績評価制度を構築することが必要である。
Ⅳ.　社会連携力の強化	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　教育・研究活動等を通じて、大学として地域連携活動を推進し、地域社会に貢献することにより、本学が地域にとって存在意義のある大学と認められることを目指す。	A	1.子ども向け地域防災イベント「イザ！カエルキャラバン！」 2.葛川児童クラブ活動 3.京都市右京区地域連携事業「山国隊プロジェクト」	1.キャリア科目「課題解決プログラム」（師茂樹教授担当）の地域課題として、花園大学オリジナルプログラムを発案し、当日実施している。花園大学の活動実績が評価され、京都市から「レジリエント・シティ京都防災功労特別表彰」を受けた。 2.キャリア科目「学生デベロップメントゼミ」（中善則教授担当：教職志望ゼミ）の地域課題として、学生による地域課題解決や葛川地域の活性化の協働プロジェクトを展開している。 3.花園大学が全体プロデュースし、各事業に学生がスタッフとして参加している。	1.地域防災イベントとして、花園大学が主催する「イザ！カエルキャラバン！」は、定着しつつある。参加学生を確保することが必要である。 2.「学生デベロップメントゼミ」教職志望学生の体験として、この葛川児童クラブ夏季活動は、定着してきている。葛川村づくり協議会と活動内容についての検証や課題について話し合う必要がある。 3.プロジェクトとしては終了したが、「山国隊研究」として山国地域との連携継続中である。今後の活動について検証、課題について協議が必要である。
Ⅴ.　キャンパス整備	評価	これまでの取組状況	達成状況	今後の課題
①　学生が安心して学べて、満足できる環境を目指して、キャンパス整備を計画的に実施する。	B	花園学園創立150周年記念事業としてキャンパス整備プロジェクトチームを立ち上げ返照館等の改築にかかる事業を実施中である。	2019年12月よりグラウンド人工芝化工事、2020年1月よりグラウンド校舎の建築工事開始。また返照館の改築に向けて作業を進めている。	引き続き計画的なキャンパス整備とともに計画的な施設管理を行う。